

# YAMAHA ELECTONE FESTIVAL 2021

## ソロ演奏部門 グランドファイナル 審査員コメント

各日の表彰式で、審査員各位から出場者の皆さんに向けて講評をお話いただきました。

より良い演奏をするためのアドバイスや、努力をたたえる言葉など、YEF に出場したすべての皆さんに向けたコメントをまとめてご紹介いたします。

### <全体を通じて>

- ・ 昨年はコロナ禍で残念ながら中止となったことで、目標をどこに置こうか、先生方もご家族の皆様も含めてつらい思いをされたのでは。音楽のない社会がどういふものか、痛いほど感じた一年だった。聴き手と演奏者が音楽を通じて心を通じ合う幸せを感じられた今日のステージを忘れないでほしい。
- ・ YEF に向けて準備してきたみなさんの取り組みは本当に尊いもの。審査結果に関わらず、この場で演奏できたことに自信をもち、今日までの練習過程を大切に、次への活力にしてほしい。
- ・ この短い演奏時間内にこんなに聴き手に伝える努力をすること自体が素晴らしいこと。今日の経験に誇りをもって、これからも音楽を楽しんでほしい。

### 1 日目 (小学生高学年部門、中学生部門)

#### <自由曲演奏>

- ・ ヨーロッパの近代の作曲家の作品など、生演奏で聴く機会の少ない曲を演奏できるのもエレクトーンという楽器が持っているポテンシャル、未来の可能性。これからも、エレクトーンとともにご自身の音楽を大切に育て上げてほしい。
- ・ 実際の管楽器は息のスピードで、弦楽器は弓のスピードで音を変えていくもの。エレクトーンで演奏するときも実際の管楽器や弦楽器の演奏者の動きをもっと観察して、エレクトーンならではの表現と結びつけ、より素晴らしい音楽を作ってほしい。
- ・ 1 曲の構成感の中には、すごく集中して全部の音を弾く場面と、鳴っている音を自分自身もゆったりと聴きながら弾く場面とがある。場面によって、演奏する自分と音楽との距離感が近づいたり遠ざかったりするのを意識すると良い。
- ・ 例えば、一つの鍵盤の音に 20 人や 30 人の演奏者がいると思って弾くタッチと、1 人の演奏者が演奏していると思って弾くタッチとでは、深さや強さが変わってくる。そういう表現がもう少しあると良い。

#### <課題演奏>

- ・ 原曲のイメージ通りの演奏も、原曲とひと味ちがうアレンジの演奏も、どちらもすばらしいエレクトーンならではの演奏だったが、原曲はどんな曲だったかを常に頭に置いて演奏してほしい。
- ・ チューンの設定は音楽の場面に応じて工夫してほしい。

## 2日目（小学生低学年部門、一般部門）

- あまり細かい動きは広いホールだとうまく伝わらないことも。会場の広さも計算して演奏すると、みなさんの音楽がより多くの聴き手に伝わるのでは。
- 弾き始める瞬間のタッチにはとても配慮がされていたが、鍵盤を離す瞬間にこそグルーブやリズムは生まれる。音色を変えられるエレクトーンの機能に頼った演奏は、聴き手に伝わる音楽にはならない。伝えるためにどうしたら良いかは、演奏している自分の指の中に隠れている。リズムに対する意識を高めていくことによって、音楽はもっとワクワクするし、もっともっと深い世界に到達することができる。
- エレクトーンは一人できざまな音を選んで演奏できる楽器だが、例えば落語家が一人で右を向いたり左を向いたりしながら語ることでうっかり者としっかり者を演じ分けるように、エレクトーンもその時々できざまな人格を演じ分けるような意識で演奏すると、すごく変わるのでは。

### <小学生低学年部門>

- 確実に次世代のエレクトーンを担う資質ある生徒さんが育っていることを実感した。無理なく自然で年齢相応に豊かに音楽表現された方を高く評価した。
- 音楽のリズムは、強い音と弱い音、もしくは重い音と軽い音が組み合わさってできている。そのコンビネーションを自分の指で使い分けて演奏できるように。

### <一般部門>

- オリジナル曲はそれぞれの演奏者の音楽の世界観がしっかりと伝わってきた。もっともっといろいろな曲を勉強して、弾いて、その栄養をオリジナル曲の創作に生かしてほしい。
- 例えばレジストレーションが無くても、このメロディーとこのハーモニーを伝えたいと思ったらさっと伝えることができる、エレクトーンはそんな楽器でもあることも頭の片隅において、これからも印象に残る曲を創作し、演奏してほしい。
- 音符の数や音楽への熱量にときどき「素」の部分があるほうが聴きやすく、構成感が感じられて、一つの作品として聴き手も一緒に楽しむことができた。1曲の中にいろいろな要素をつめこみたい気持ちもわかるが、濃淡をつけて構成できると良い。
- エレクトーンはさまざまな機能をもった楽器だが、聴き手にいちばん伝わるのは、やはりメロディー、もしくはその瞬間にリードしているパートが美しく弾けているか、説得力のある表現ができているか。たくさんつめこむことで、神経がちがうところに行ってしまうと、もう一度感じてみて。
- 課題編曲演奏について、課題曲の音型やフレーズなどから発想してそのスタイルにたどり着いた、という演奏と、このスタイルでやってみよう、が先にあり、そこに音符をはめていったという演奏の2種類があった。様々なスタイルに挑戦することはとても良いことだが、選んだスタイルとその曲の関係性がしっかりと結びつくまでアプローチしてほしい。
- 実施要項に記載の通り、確かな演奏技術と表現力を持っていることが前提で、その上で「聴衆の心に響く演奏表現」と「多くの聴衆と感動を共有する」ことが求められている。“ふつうに上手に弾く”だけでなく、聴き手の心に届けることを意識して、さらに研鑽を積んでほしい。